

異年齢の友だちと関わりながら楽しく、遊び込める日々を過ごすために

認定こども園 かんぎおん

I ねらい

「楽しい」「もっとやりたい」と思える遊びを見つける。

II 環境の構成と保育者の援助

- ・主体的に遊べる環境を用意し、様々な体験ができることにより、自分で考えて行動できるようにする。



【遊びのコーナーを掲示】

遊びは、コーナーごとに分かれていて、自分の興味ある遊びを選択して遊べるようにしています。

III 保育の場面

- ・子どもの夢や願い、友だち同士での関わりの様子から、遊びや活動の中で子どもたちが楽しいと感じ、自分で考え、行動できるような姿が見られるよう、環境を整え、実践し、記録をとる。

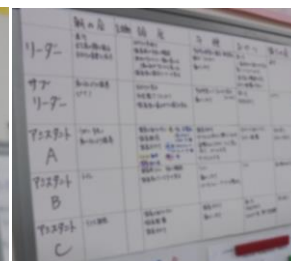


3・4・5歳児については、異年齢保育を実践し、異年齢の友だちとの関わりを生かしています。

保育者は、子どもから距離をとって、心を配り、行為を見守っています。

環境の再構成と保育者の援助のポイント

- ・子どもたちが遊び込めるよう人的、物的環境を充実させる。
- ・実践した遊びや環境構成、援助方法を職員間で話し合う。



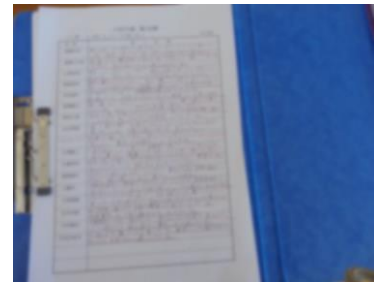
学級担任制をやめ、保育者の分担を輪番で行うチーム保育に取り組んでいます。職員の連携、チームワークが保育力の向上につながっています。

IV 学びの評価

- ・ゆったりとした環境の中で、落ち着いた行動ができる。
 - ・異年齢の友だちとの関わりが自然な形で行われている。
- 今の保育形態の中で、将来どんな資質・能力につながるか。



一律に座って、全員が揃うまで待つ給食を脱し、自分の給食は、自分で用意。準備ができたグループからいただきます。



子どもの育ちを記録しながら、「ヒヤリハット」などを保育者同士で共有。どんなことも相談し合える関係が生まれます。

V 次の時期のねらい

- ・異年齢の中で環境構成を充実することにより、一人ひとりの姿がどのように変わるのか。また、年上の友だち、年下の友だちとの関係は、どう変わるのかを探る。

VI 小学校との連携（学びの連続性）

- ・子ども一人ひとりが生活の中で、どのような資質・能力が育まれたのか、成長アルバムを基に、要録に記録し、学びの連続性を図る。
- ・保育理解のために保育参加を依頼する等の中で、双方が理解をし合う。
- ・園の生活や遊びの中で育んだ「生きていく力」、心情・意欲・態度をつないでいく。

VII その他（家庭との連携・3歳未満児保育）

- ・子育ての伴走者として子どもたちの成長を共に感じ合う。
- ・一人ひとりの愛着関係を大切にし、いろいろな保育者と関わる中で、誰とでも安心して生活ができるようにする。



一人一人の子どもの育ちを写真とともに家庭へ伝え、親育ちや子育て支援に生かしています。